

### 町子ども・子育てプランの概要について

#### 第3回産業厚生常任委員会

2月27日

(1)介護保険法の一部改正に伴う地域包括支援センター等の基準を定める条例の制定等について

(2)社会福祉法人幌延福祉会『いびくら荘』運営費の助成について

平成24年度からマイナス収支に陥り、年々その額が大きくなってきている。平成25年度決算までは内部留保金で補って来たが、平成26年度決算見込みでは内部留保金を上回ることから、平成26年度に1千4百26万円、平成27年度に3千6百55万円の運営費助成のお願いをされている状況である。

今後の改善策として、入所定員の検討、人件費、サービス向上対策等が考えられるが、こざくら荘との協議事項と考慮しており、また来次第委員会等で議論いただきたいと考えている。

問 町と福祉会はどういう関係にあるのか。

答 法人の設立にあたり、町が1千5百万円出資した。

問 赤字額を町が負担するのはおかしいと考えるが。

答 町が責任を持って設立した法人であり、他に手段がないと考えている。

問 民間法人に税金を使っても赤字補てんをしても構わないということか。

答 民間といっても福祉法人であり、町民に密接に関わっている特老を倒産させるような、乱暴な議論にはならないと考える。

問 将来的にどういう形で運営していくのが良いのか検討しているのか。

答 特老以外の施設という話も含め、高齢者の入居施設をどう考えていくかは今後の課題であり、議論していかねければと考えている。

(3)「幌延町子ども・子育てプラン」(案)及び「第6期幌延町介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画」(案)に関する意見募集の結果について



### 行政報告

長年にわたり幌延町交通安全指導員としてご尽力いただき、交通安全実践者として他の模範となると認められたことから、北海道知事より北海道善行賞が、村元英一氏に2月6日、授与された。

長年にわたり町民の医療を担い、保健衛生や健康管理にご尽力いただき、困難な環境のもとで多年にわたり医療活動に従事。献身的に職務に励んでこられた事で、読売新聞社より浦山淳氏に医療功労賞が贈呈された。

浦山先生におかれては、この賞の他にも昨年11月に北海道知事より地域医療功労者として北海道社会貢献賞が授与された他、12月には天塩警察署長より長きにわたり検案業務を行ってきたことが、警察業務運営への多大なる貢献であると讃えられ、感謝状が贈呈されている。

### 教育行政報告

この時期心配されている各学校でのインフルエンザについては、幌延小学校で1年生が3日間、2年生が2日間の学年閉鎖をしている。その後、幌延中学校で2年生数名の感染が確認された。

稚内地区吹奏楽連盟主催の平成26年度稚内地区管楽器個人及びアンサンブルコンクールが稚内総合文化センターで開催され、幌延中学校から個人で2名、アンサンブルでは木管五重奏と金管八重奏で2組、計13名が参加し、練習の成果をしっかりと披露した結果、全てで銀賞を受賞した。

平成26年度宗谷管内教育実践表彰の表彰式が3月5日、問寒別町民会館で執り行われ、宗谷教育局長より放課後子ども教室おひさま子育て会が表彰された。今後ともこの活動が継続されるよう、望んでいる。

### 編集後記

私たちの議会報編集委員会も、第83号の発行をもってその任期を終えることになりました。この号が届く頃には、新しい議員が選出されて、新生幌延町議会を構成していることと思います。何分不慣れで、読みにくいものだったと思いますが、ご愛読いただきありがとうございます。次号からは新しい委員が担当しますので、よろしくお願いいたします。



編集委員長	鷲見 悟
副編集委員長	斉賀 弘孝
編集委員	吉原 哲男
	西澤 裕之